

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2011年4月～2012年3月

国名：日本

※今年度の年次報告書は担当者の名前やメールアドレスなどは伏せた形で冊子やHP上で公表する可能性があります。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 担当者

2. 学校概要

学校名 玉川大学 教育学部

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒194-8610

東京都 町田市 玉川学園 6-1-1

E-mail : _____

Website : http://www.tamagawa.jp/

児童生徒数：男子 457名 女子 936名 合計 1393名

児童・生徒の年齢 18歳～23歳

3. 実施活動（下記から選択し、ESDについては活動した分野に○をして下さい。）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
 持続発展教育（ESD）（ 国際理解 世界遺産 平和・人権 環境 気候変動
生物多様性 エネルギー 防災 食育 伝統文化 その他（ ）
 そのほか（心理教育 - 心の支援と学校教育相談）

4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

①2009年度、2010年度に引き続き、文部科学省受託事業「日本／ユネスコ パートナーシップ事業」の一環として、2011年12月10日（土）に玉川大学にて第3回目の『ESD 地域推進フォーラム』を開催した。学内の関係者に加え、学外より55名の参加があった。日本ユネスコ国内委員会、近隣地区の学校関係者と教育委員会、ユネスコスクール関係者、および玉川学園の環境教育、国際教育関係者が集い、ESDの新たな地域展開とユネスコスクールの地域ネットワーク構築に関する研究報告および事例報告が行われた。

今年度の「ESD 地域推進フォーラム」は、ESDの教育理念に基づき、子どもの知識理解のみならず、環境に働きかけ、国際的な視野を持って周りを変えていける主体的な力の育成に資する教育手法と教師教育の実践的開発を試みることで、そしてそのESD成果を、ユネスコスクール地域ネットワークを活用して学際的に関係者に共有することを目的に実施された。また東日本大震災を受け、ESDの視点から、教育復興と防災教育という新たな課題を共有した内容を加えて実施した。これまでのESD地域フォーラムの成果を持続可能なものに育ててゆくために、多摩地区におけるESDを基軸としたユネスコスクールおよびESDを実践する学校、行政、市民コミュニティー、大学、地域との連携を効果的に行える「多摩地区ESDコンソーシアム」の構築を大きな目標に掲げた。

具体的には、東松島市立大曲小学校の荒明聖教頭が東北地区での震災経験を踏まえた防災教育の視点から基調講演を行い、LFA（NPO法人 Learning For All）の松田悠介代表理事が、被災児童生徒の避難地における学習支援に関する特別報告を行った。また近隣自治体における教育委員会および学校現場でのESD実践成果の評価や今後の展開の方向性について、多摩市教育委員会・稲城市教育委員会の協同による第1分科会「地域特性を生かしたユネスコスクールの展開」、川崎市総合教育センターによる第2分科会「環境教育の実践とESD」、横浜市立永田台小学校による第3分科会「いのちのつながりとESD」での議論が展開され、最後に文部科学省初等中等教育局 教育調査官の村山哲哉氏およびユネスコ・アジア文化センター参与の渡辺一雄氏による講評と総括がなされた。

今年度の「ESD 地域推進フォーラム」においては、これまで以上に、「多摩地区ESD地域コンソーシアム」の構築に向けた課題共有や情報交流が関係者の間で密に行われ、また多摩市をはじめとする自治体と玉川大学との間の具体的なパートナーシップ協定の足掛かりとなった。本年度の事業は、ユネスコスクールの多摩地区ホームページの策定や、2013年のユネスコスクール60周年記念行事の準備、2014年のESD最終年世界会議に向けた協同のESD実践プログラムの構築など、地域コンソーシアム構築に向けての具体的な課題と取組みが明確化されたという意味で大きな意義があったと言える。

②玉川学園の教育理念「全人教育」の現代的意義について学際的研究・実践を行う場として『玉川教育フォーラム』が2010年に創設されたことを受け、2011年8月9日（火）に開催された『第2回 玉川教育フォーラム』の一環として『ESD分科会』を開催した。持続発展な社会の構築を目指す教育とそれに向けてのユネスコスクールの役割について、東京学芸大学の成田喜一郎教授の基調講演をはじめとして、幅広い学際的視点から研究報告と実践報告が行われた。また、ESDの多角的な展開に向けた町田多摩地区におけるユネスコスクール間の連携体制（地域コンソーシアム）の構築について具体的な議論が行われた。

③2011年11月12日（土）に開催された『第3回ユネスコスクール全国大会』（会場：東京海洋大学）に参加し、各地域におけるユネスコスクールの教育実践を学ぶと同時に、ESDの推進に向けて学校、大学、行政、地域社会をつなぐ学際的アプローチの可能性と課題について、関係者と議論を深めた。

また玉川大学教育学部の小林亮は、本次ユネスコスクール全国大会での「参加交流研修会6：教材開発B 国際理解教育」における司会兼コーディネーターを担当し、ユネスコスクールにおいて国際理解教育をESDとの連関でどのように展開していくかという課題について、小学校、中学校、高等学校の異学校種間における交流と情報共有の促進に努めた。

④ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）の加盟大学として、以下の「日本／ユネスコ パートナリシップ事業」ASPUnivNet 連絡会議に参加し、加盟大学間のネットワーク強化と共同事業の展開に向けた提案と協議を行った。また宮城教育大学が中心となりASPUnivNetとしてフラッグシップ事業に向けて提唱している「お米プロジェクト」（Rice Project）の具体的展開の見通しと参加方法について協議を行った。

- a) 「平成23年度 日本／ユネスコ パートナリシップ事業」
第1回 ASPUnivNet 連絡会議（奈良教育大学、2011年7月17日）
- b) 「平成23年度 日本／ユネスコ パートナリシップ事業」
第2回 ASPUnivNet 連絡会議（東京海洋大学、2011年11月13日）
- c) 「平成23年度 日本／ユネスコ パートナリシップ事業」
第3回 ASPUnivNet 連絡会議（秋葉原UDX、2012年1月29日）

⑤ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）の加盟大学同士の連携を図る試みの一環として、北海道教育大学釧路校と玉川大学教育学部とのユネスコスクール協同プログラムの実現に向けた活動を発足させた。

具体的には、2012年2月18日（土）～20日（月）にかけて、北海道教育大学釧路校ESD推進センターに所属する北海道教育大学ユネスコクラブ（代

表：神田房行教授）と玉川大学ユネスコクラブ（代表：小林亮教授）との合同スタディツアーを世界自然遺産である知床で行い、知床をテーマとして協同の世界遺産学習セミナーを開催すると同時に、両大学における教師教育を中心としたESD推進活動について情報交換と連携協議を行った。

今後に向けての両大学間のユネスコ活動の連携において、①世界遺産学習をテーマとした合同合宿の継続的な実施、②異文化理解・平和学習の一環として、北方領土ビザなし渡航への共同参加、③アジアの開発途上国へのスタディツアーの共同実施と現地への教育支援活動における協力、の3点を推進してゆくことが合意された。

⑥玉川大学ユネスコクラブは、2011年8月1日～6日にかけて、カンボジアのシェムリアップにスタディツアーを行った。日本ユネスコ協会連盟のカンボジア事務所を訪問して、EFAに向けた教育支援と国際協力の課題について共同セミナーを開催した。また日本ユネスコ協会連盟によって設立された「寺子屋」(CLC)と夜間教室への訪問、Build Bright University (BBU)との交流、JMASによる不発弾および地雷撤去作業への支援ボランティア活動、クルサー・リッリエイ孤児院等の施設への訪問と交流、アンコールワットをはじめとする世界遺産への訪問と学習会を実施した。このカンボジア・スタディツアーの成果については、日英2ヶ国語の報告書を作成中である。

⑦ユネスコスクールの加盟校である横浜市立永田台小学校との間で、「武家の都」鎌倉をテーマとした世界遺産学習の促進に向けた小大連携の試みとして、「いざ鎌倉プロジェクト」を発足させた。具体的には、永田台小学校6年生の3回にわたる鎌倉訪問フィールドワークに際し、玉川大学教育学部の教職志望学生および玉川大学ユネスコクラブ部員学生が引率補助と現地での指導補助を行った。また同学生グループが永田台小学校を数次にわたって訪問し、「武家の都」鎌倉の歴史的・文化的意味と世界遺産登録の意義および課題について、6年生児童を対象に出前授業を行った。さらに2011年12月15日～17日に東京国際展示場（東京ビッグサイト）にて開催された「エコプロダクツ2011」に、鎌倉をめぐるESD教育実践（世界遺産教育、環境教育、国際理解教育）をテーマに永田台小学校と共同出展を行った。

⑧本年度は、近隣地区の中でも特にユネスコスクール活動およびESD実践の盛んな多摩市との連携強化と協同プログラムの開発が、本学の大きな活動テーマとなった。具体的には、多摩市内のユネスコスクール（多摩中学校、多摩第一小学校、連光寺小学校）と英国サウスエンド市のユネスコスクールとの国際交流プログラム「テムズ川プロジェクト」における連携とプログラムの共同開発が次年度に継続する国際交流事業として発足した。また玉川大学の教員養成プログラムの一環として、教育学部学生の多摩市内のユネスコスクールにおける教育実習とESD研修を実施すること、現職教員のESD訓練プログラムの共同開

発を行うことについて、将来の包括協定も視野に入れながら、合意が形成された。さらに、2013年のユネスコスクール設立60周年行事および2014年のESD最終年世界会議に向けて、玉川大学教育学部と多摩市教育委員会が協同で実施できるプログラムについて、「日本／ユネスコ パートナーシップ事業」への申請も射程に入れながら、ACCU および ESD-J との協力のもと、プロジェクトを具体的に計画、準備、実施していく作業チームの結成が合意された。

⑨玉川大学ユネスコクラブは、学生の主導による課外活動におけるユネスコスクールの取組みの一環として活動を展開してきたが、全国さらには海外に多数存在するユネスコ協会およびユネスコクラブとの交流と連携を強化するため、2011年7月1日に公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟に構成団体会員として加盟した。これを受けて、2012年1月14日に開催された日本ユネスコ協会連盟の評議員会において、加盟記念スピーチを行い、とくに大学ユネスコクラブ間の全国的ネットワークを構築してゆくことを目標に活動を展開してゆく方針を表明し、同協会連盟の賛意を得た。

⑩ユネスコスクール申請に向けた関係小中高等学校への支援として、多摩市内の諸学校（西愛宕小学校など）、稲城市内の諸学校（稲城第三中学校、稲城第四中学校、稲城第二小学校、稲城第三小学校、稲城第四小学校など）、慶應義塾高等学校、横浜国立大学附属鎌倉中学校・小学校、不二聖心女子学院中学校・高等学校等の加盟申請書に対するチェックとアドバイスを行った。また多摩市教育委員会、稲城市教育委員会、川崎市教育委員会、横浜市教育委員会、町田市教育委員会、静岡県天城中学校、川崎市立枡形中学校、町田市立小山田小学校のESD活動推進に向けた教育活動、教材開発面での助言を行った。

⑪首都圏におけるユネスコスクール加盟校との交流と支援の一環として、これまで交流を続けてきた新宿区立西戸山小学校が2011年12月5日（月）に開催した『ユネスコ週間 開会式』に本学教育学部学生およびユネスコクラブ部員とともに参加し、同校における国際理解教育に関する指導と助言を行った。

⑫文部科学省の委託により、2011年10月16日～18日に、中国ユネスコ国内委員会および北京教育科学院の主催により北京で開催された「第5回北京ESD国際フォーラム」にACCU 参与の渡辺一雄教授とともに参加し、日本におけるユネスコスクールの取組みとユネスコスクール支援大学間ネットワークの活動状況について発表を行った。またユネスコ本部、中国および世界各国のESD関係者と交流を深め、今後のESD広域ネットワークの形成に向けたビジョンと具体的作業について協議を行った。

⑬2012年2月15日（水）に第130回日本ユネスコ国内委員会にて行われたイリーナ・ボコヴァ ユネスコ事務局長の講演に傍聴参加し、また同日夜に

日本ユネスコ協会連盟の主催で行われたチャリティー・パーティーにおいて、ボコヴァ事務局長に、首都圏におけるユネスコスクールの動向と、日本におけるユネスコスクール支援大学間ネットワークの活動状況について報告を行った。

⑭奈良教育大学の主催する「世界遺産教育講演会 in 東京：ESD・世界遺産教育出前講座」（2012年1月29日）に参加し、関係者との世界遺産教育の課題について交流と情報交換を深めた。

活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用 ユネスコクラブの活動として実施
- その他（文部科学省委託事業「日本／ユネスコ パートナーシップ事業」による「ESD 地域推進フォーラム」等の行事の実施）

今年度の活動結果について（下記から選択して下さい。）

- 大変効果的な活動ができ、大変満足。 効果的な活動ができ、満足。
- 効果的な活動ができず、やや不満が残る。

どのように活動を学校のプログラムに盛り込んだか記載願います。

一年次（FY）科目として環境と人間に関するテーマを設定、大学2年次の導入科目「キャリア演習」、3・4年次ゼミ「教育学演習」、専門科目「国際理解教育」「異文化理解と教育」「環境教育」「国際関係論」等の諸科目において、教員養成にむけたESD、環境教育、国際理解教育その他ユネスコスクールに関連した学習テーマを扱った。

また課外授業として、国際連合大学および国際連合広報センターへの訪問、国際協力機構（JICA）への訪問、世界遺産（京都）への訪問学習、日本赤十字社への訪問学習、他のユネスコスクールとの交流会（横浜市立永田台小学校、新宿区立西戸山小学校、多摩市立多摩中学校など）等を行った。

課外活動としては、ユネスコクラブにて、ユネスコ学習会、かながわ国際交流財団およびドイツ学術交流会（DAAD）との連携で外国人留学生との交流ワークショップ、海外スタディツアー（カンボジア）、北海道教育大学との知床での合同ワークショップ、ユネスコ講演会、国際ボランティア（カンボジア）等を行った。

今までの活動の中で、教育の質の向上に効果のあった活動がありましたら、記載願います。

教員および学生に、ユネスコおよびESDに対する認知度が顕著に高まった。

また、教育実践としての ESD 的課題をめぐる国際交流と情報共有への関心と意欲が教育学部全体として高まった。とくに、玉川学園機関誌『全人』にユネスコスクールおよびユネスコクラブの活動が広報されたことで、ユネスコスクールとしての教育使命と課題に向けての意識醸成が学内外に広まった。

2011年12月10日に玉川大学で実施された第3回『ESD 地域推進フォーラム』には、多数の教員および学生が参加したため、ユネスコスクールの教育的意義と課題について、FD 的観点からも、教育学部全体（教材開発に関する農学部の基礎研究と環境エデュケーターの資格認定、玉川学園小中高等学校（K12）の ESD 視点での活動評価、国際バカロレア認証における教育の質向上への意識喚起を含む）に問題意識の共有が行われ、ユネスコスクールとしての教育活動の将来的展開に関して積極的な提言が行われた。同フォーラムでは、近隣地区の公立小中学校や教育委員会指導部局の参加を得たことで改めて ESD 評価に基づく教育実践活動の見直し、意義付けが進み、とくに多摩地区における ESD 活動を中核に据えたユネスコスクール地域コンソーシアムの構築についての賛同が得られたことの意義は大きい。そのための具体的な取り組みのひとつとして、ユネスコスクールの多摩地域ホームページを作成して同地区におけるユネスコスクール関連の情報共有と交流のフォーラムとして活用することが合意された。

活動の内容を補完する以下の資料があれば添付願います。

- 紙媒体の参考資料（新聞、出版物など） CD-ROM 写真
 その他（2011年12月10日開催の第3回玉川大学『ESD 地域推進フォーラム』報告書 → 先日、日本ユネスコ国内委員会宛に5部ご送付させて頂きました。）

以下につきましては、該当する取組を実施した場合のみ
記載をお願いします。

実施テーマにおける教材の工夫や授業手法における工夫。

①ユネスコの理念と玉川学園の全人教育の理念との総合をめざし、初等・中等教育を対象としたユネスコスクール副読本としての教材「玉川の丘－自然と環境教育」（仮題）の制作を計画しており、農学部、K-12をはじめとする学園内諸部署との連携と協同作業を進めている。

②環境教育（環境科学を含む）、国際理解教育（開発教育を含む）、労作教育、ユネスコクラブの課外活動を中心に、現在本校で実施されているユネスコスクールに関連した教育活動の自主的評価とユネスコの視点からの位置づけを進めている。

③ユネスコスクールの歴史と今日的意義や教育課題について、広く教育関係者、教育行政関係者さらには一般市民社会に向けての情報発信と広報の一環として、「ユネスコスクール」（ASPnet）の概要を紹介する書籍を準備中である。

実施テーマに関連した研究旅行の実施。

①玉川大学ユネスコクラブは、国際交流を通じた異文化理解、世界遺産教育および教育支援ボランティアの目的で、2011年8月1日～6日にカンボジア・シェムリアップにスタディツアーを行った。日本ユネスコ協会連盟のカンボジア事務所を訪問して、EFAに向けた教育支援と国際協力の課題について共同セミナーを開催した。また日本ユネスコ協会連盟によって設立された「寺子屋」（CLC）と夜間教室への訪問、Build Bright University（BBU）との交流、JMASによる不発弾および地雷撤去作業への支援ボランティア活動、クルサー・リッリエイ孤児院等の施設への訪問と交流、アンコールワットをはじめとする世界遺産への訪問と学習会を実施した。このカンボジア・スタディツアーの成果については、日英2ヶ国語の報告書を作成中である。

②教育学部カリキュラムの「教育学演習」の夏季合宿として、2011年9月12日～14日に京都の世界遺産を訪問学習した。アジア文明史の中で日本という国家が国際交流を通じ自文化アイデンティティを確立していった歴史的経緯とその現代的意義を体験学習した。また自国の文化伝統の理解と評価が国際理解と異文化学習の出発点であり基礎であることについて議論を深めた。

③ 2012年2月18日（土）～20日（月）にかけて、北海道教育大学釧路校 ESD 推進センターに所属する北海道教育大学ユネスコクラブと玉川大学ユネスコクラブとの合同スタディツアーを世界自然遺産である知床で実施した。知床をテーマとして協同の世界遺産学習セミナーを開催すると同時に、両大学における教師教育を中心とした ESD 推進活動について情報交換と連携協議を行った。また地域特性を生かした ESD 教育実践のあり方について議論を深めた。

☑ 他国の学校との交流や相互協力の実施。（交流した国、学校名の記載もお願いします。特に相手校が ASP ネットワークに参加している場合は、その旨も記載願います。）

①カンボジア・シェムリアップにある Build Bright University (BBU) との交流。
2011年8月に実施したユネスコクラブのカンボジア・スタディツアーで訪問し、日本とカンボジア双方における教育課題と ESD を学校現場で捉えていく基本的視座について、情報と視点を交換した。

②師範大学附属中学校（ASP 校）との交流。「日本／ユネスコ パートナーシップ事業」の一環として、ASPUivNet が2011年3月に実施した中国でのユネスコスクール調査の際に同校を訪問し、今後、同じく ASP 校である玉川大学との間で、とくに国際理解教育のテーマ焦点づけした交流と協同を展開していくことを合意した。

☑ 国連やユネスコが取り組む国際的な記念日、国際年、国際的な10年を記念する取組の実施。（国際母語の日、国際天文年、識字の10年など）

①2011年10月16日～18日に、中国ユネスコ国内委員会および北京教育科学院の主催により北京で開催された「第5回北京 ESD 国際フォーラム」に参加し、日本におけるユネスコスクールの取組みとユネスコスクール支援大学間ネットワークの活動状況について発表を行った。中国をはじめとする諸外国のユネスコスクールや関連諸機関との交流を深め、また中国および関連諸国での ESD 教育実践に関する情報を収集した。今後の ESD 広域ネットワークの形成に向けたビジョンと具体的作業について協議を行った。

②2012年2月15日（水）に第130回日本ユネスコ国内委員会にて行われたイリーナ・ボコヴァ ユネスコ事務局長の講演に傍聴参加し、また同日夜に日本ユネスコ協会連盟の主催で行われたチャリティー・パーティーにおいて、ボコヴァ事務局長に、首都圏におけるユネスコスクールの動向と、日本におけるユネスコスクール支援大学間ネットワークの活動状況について報告を行った。